

日医ニュース

No. 1308
2016. 3. 5



発行所 日本医師会

http://www.med.or.jp/

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16

電話 03-3946-2121(代)

FAX 03-3946-6295

E-mail wwwinfo@po.med.or.jp

毎月2回 5日・20日発行
定価 2400円/年(郵税共)

トピックス

- 定例記者会見 3面
- 日本医師会医療情報システム協議会... 4面
- 「心に残る医療」体験記コンクール表彰式... 8面

中央社会保険医療協議会総会

平成28年度診療報酬改定に関する答申まとまる かかりつけ医の更なる評価、在宅医療の推進、医療機能分化等を評価

中協総会では、厚労省事務局からこれまでの議論を踏まえて作成された短冊に具体的な点数を盛り込んだ答申案が示され、診療・支払両側がこれを了承。答申書には、「急性期、回復期、慢性期等の入院医療の機能分化・連携の推進等について、影響を調査・検証し、引き続き検討すること」



中協総会では、厚労省事務局からこれまでの議論を踏まえて作成された短冊に具体的な点数を盛り込んだ答申案が示され、診療・支払両側がこれを了承。答申書には、「急性期、回復期、慢性期等の入院医療の機能分化・連携の推進等について、影響を調査・検証し、引き続き検討すること」

中協総会が2月10日、厚生労働省で開催され、平成28年度診療報酬改定に関する答申がまとまり、田辺国昭中協会長（東京大学大学院法学政治学研究科教授）から塩崎恭久厚労大臣（代理）・竹内譲厚労副大臣）に提出された。これを受けて日医では、同日、日本歯科医師会、日本薬剤師会及び四病院団体協議会と共に、相次いで記者会見を行い、横倉義武会長が今回の改定に対する日医の考えを説明した。



山本 信夫
横倉 義武
山科 透

また、「財政を緊縮しようとする立場から、成長戦略や規制緩和の名の下に、保険給付範囲を狭める圧力が続いていることが予想される。世界に冠たるわが国の国民皆保険が崩壊する一番の要因は、『財源抑制による給付範囲の縮小』によりもたらされる可能性が高い」として、「財

政主導ではなく、時代に即した『改革』を進めながら、過不足ない適切な医療が提供できるよう、我々医療者側から提言していかなければならぬ。平成30年度の医療と介護の同時改定に向け、早々に検討を開始すべきであり、医療を支える三師会は、相互に連携し、国民誰もが必要な医療を過不足なく受けられるよう邁進していくとした。

山科日歯会長は、「いくつかの点で特色があり、期待できる」と評価するとともに、「かかりつけ歯科機能について」「地域包括ケアシステムの中で多職種連携を図りながら、地域完結型の医療を推進する足掛か

引き続き行われた日医・四病協合同記者会見には、日医から横倉会長、中川・松原副会長、松本常任理事が、日本病院会から堺常雄会長、万代恭嗣常任理事が、全日本

等、18項目からなる附帯意見が付けられることになった。答申取りまとめを受けて、診療側を代表して意見を述べた松本純一常任理事は、「当初の議論から、診療・支払両側には大きな隔たりがあり、いまだに認識の差が埋められていないところもあるが、双方が歩み寄り、答申できたとは良かった」と感想を述べた。

なお、日医では、今回の答申取りまとめを受けて、改定の内容を伝達することを目的とした、都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会を3月5日に開催することとしている（本紙4月5日号にて詳報予定）。

また、「財政を緊縮しようとする立場から、成長戦略や規制緩和の名の下に、保険給付範囲を狭める圧力が続いていることが予想される。世界に冠たるわが国の国民皆保険が崩壊する一番の要因は、『財源抑制による給付範囲の縮小』によりもたらされる可能性が高い」として、「財

政主導ではなく、時代に即した『改革』を進めながら、過不足ない適切な医療が提供できるよう、我々医療者側から提言していかなければならぬ。平成30年度の医療と介護の同時改定に向け、早々に検討を開始すべきであり、医療を支える三師会は、相互に連携し、国民誰もが必要な医療を過不足なく受けられるよう邁進していくとした。

山科日歯会長は、「いくつかの点で特色があり、期待できる」と評価するとともに、「かかりつけ歯科機能について」「地域包括ケアシステムの中で多職種連携を図りながら、地域完結型の医療を推進する足掛か

引き続き行われた日医・四病協合同記者会見には、日医から横倉会長、中川・松原副会長、松本常任理事が、日本病院会から堺常雄会長、万代恭嗣常任理事が、全日本

三師会合同記者会見

地域包括ケアの推進に向けた
少ない改定財源の中で
それなりの評価ができた — 横倉会長

三師会合同記者会見に、横倉会長、山科透日歯会長、山本信夫日薬会長、中川俊男・松原謙二両副会長、松本常任理事、遠藤秀樹日歯常務理事、安倍好弘日薬常務理事が出席した。

横倉会長は、「限られた財源の中でも、超高齢

また、「財政を緊縮しようとする立場から、成長戦略や規制緩和の名の下に、保険給付範囲を狭める圧力が続いていることが予想される。世界に冠たるわが国の国民皆保険が崩壊する一番の要因は、『財源抑制による給付範囲の縮小』によりもたらされる可能性が高い」として、「財

政主導ではなく、時代に即した『改革』を進めながら、過不足ない適切な医療が提供できるよう、我々医療者側から提言していかなければならぬ。平成30年度の医療と介護の同時改定に向け、早々に検討を開始すべきであり、医療を支える三師会は、相互に連携し、国民誰もが必要な医療を過不足なく受けられるよう邁進していくとした。

山科日歯会長は、「いくつかの点で特色があり、期待できる」と評価するとともに、「かかりつけ歯科機能について」「地域包括ケアシステムの中で多職種連携を図りながら、地域完結型の医療を推進する足掛か



坪井栄孝元会長逝去

坪井栄孝元会長が2月9日、呼吸不全のため、福島県郡山市内の病院で死去した。86歳だった。通夜が2月15日、葬儀・告別式が16日に郡山市内で執り行われた。喪主はご子息、永保氏。

坪井元会長は昭和4年から福島県医師会常任理事となり、昭和49年から同会副会長、昭和55年から同会会長に就任。その後、同研究所付属坪井病院院長、名誉院長を務めた。

地域医療活動の傍ら、昭和49年から郡山市医師会理事、昭和55年から日本医師会総合政策研究機構（日医総研）を創設し、理事を務めた。

また、平成9年には、日医が目指す「国民のための医療政策展開」を強力にサポートするためのシンクタンクとして、「日本医師会総合政策研究機構（日医総研）」を創設し、理事を務めた。

なお、3月27日に郡山市内で坪井病院主催の「お別れの会」が行われることになっている。

福島県生まれ。昭和27年日本医科大学を卒業後、国立がんセンター一病院放射線部医長を経て、昭和49年財団法人慈山会医学研究所を設立し、理事長に就任。その後、同研究所付属坪井病院院長、名誉院長を務めた。

その後、平成4年から日医副会長を、平成8年から4期8年にわたり、日医会長を務めた。

その間、平成12年には武見太郎元会長以来日本医師会として2人目となる世界医師会長に就任。地球規模での人類の公衆衛生の向上・発展に努めた。

また、平成9年には、日医が目指す「国民のための医療政策展開」を強力にサポートするためのシンクタンクとして、「日本医師会総合政策研究機構（日医総研）」を創設し、理事を務めた。

また、平成13年4月に勲一等旭日大綬章を受章している。

した他、同年7月には、21世紀の少子高齢社会を迎えるに当たり、当面実施すべき抜本改革案をまとめた「医療構造改革構想」を公表した。

更に、国民に適正な医療を提供するため、国内外から情報を収集・還元することを目的として、「医師会総合情報ネットワーク構想」を提唱するなど、地域医療の推進に多大な貢献を果たした。

平成13年4月に勲一等旭日大綬章を受章している。

日医・四病協合同記者会見

7対1入院基本料の見直しの影響を
早急に検証すべき

早急に検証すべき

横倉会長は、医科部分の改定のポイントを、(1)患者に身近な診療所や中小病院のかかりつけ医の更なる評価、(2)在宅医療の推進、(3)入院の機能分化、(4)医療技術の適正評価、(5)医薬品の適正使用の五つに分けて、それぞれ説明した。

(1)では、地域包括診療加算や地域包括診療料の要件が緩和されたこと、また、認知症や小児において新たにかかりつけ医機能の評価がなされたことを評価することも、特定機能病院及び一般病床500床以上の地域医療支援病院において、紹介状なしで受診し



（1面より）
た場合の定額負担が導入されたことに関しては、「こうした外来機能分化の動きの中で、かかりつけ医療機能を強化し、今後の改定で更なる評価を求めていきたい」とした。

（2）では、「同一建物居住者の場合」の定義見直しや、同一建物での診療人数による評価の細分化が実施されたことを評価するとともに、今回一定の要件の下に認められた在宅医療を専門に行う

医療機関については、「在宅医療を担うかかりつけ医をバックアップするために、地域包括ケアシステム推進の中で、積極的に地域医師会と協力して、地域医療を守って欲しい」と述べた。

（3）では、7対1入院基本料の要件が厳格化されたことについて、「急激な見直しにより医療現場に混乱が起これば、最終的に不利益を受けるのは患者であり国民である」とした上で、該当患者割合が引き上げられたことなどについては、「医療現場の影響をしっかりと検証した上で、必要であれば早急に対応を行うべきだ」とした。

（4）では、「手術報酬に関する外保連試案」の改訂に基づき、手術料の見直しが行われたことは評価するとした他、（5）では、長期処方が残業の原因の一つとなる場合もあることから、薬剤師との連携を通じて、処方の見直しや、より適切な服薬指導・薬剤管理が行われることを期待しているとした。

協の各団体から今回の改定に対する考えが示された。堺日病会長は、病棟群単位での届出が可能になったことについて、病床機能報告制度の実態と併せて、診療報酬の手当として必要かどうか適切な検証が必要とした。

西澤全日病会長は、7対1入院基本料の要件が厳格化されたことについて、「7対1をどれぐらいの医療機関が算定できる」と述べるとともに、人件費を上げられない中で医療の質の担保が課題になるとした。

山崎日精協会長は、「看護職員の月平均夜勤時間数の要件の緩和」や「入院中の他医療機関受診時における減算規定の緩和」を評価。伊藤日本医療法人協会会長代行は、二次救急医療機関における夜間休日救急搬送医学管理料の拡大について、「評価するが、人件費を賄うという意味からすると十分ではない」と述べた。

その後の質疑応答では、中川副会長が、「7対1入院基本料の要件である『重症度、医療・看護必要度』は、2年前に見直したばかりであり、朝令暮改の診療報酬改定は、現場の混乱をもたらすので、慎重にしなければならぬと考えている」と説明するとともに、「四病長期投薬を見直す方向性が示されたことについては、『画期的であり、評価している』とした。

松原副会長は、紹介状なしの大病院受診時の定額負担の導入について、「適切な場所での適切な医療を受けることに実効性を保てるように、医療資源を分配する形が大事」とし、ニコチン依存症管理料については、「若年者への要件が緩和され、支払側にも理解されたい」と述べ、今回の改定を高く評価した。

松本常任理事は、在宅医療について、「前回改定では、同一建物での不適切事例を意識するあまり、無茶な改定が行われた。それが是正されたことは評価する」としながらも、「同一建物においても、一人ひとりを診察することも変わらぬ」と述べた。

更に、万代日病常任理事は、病棟単位での届出が導入されたことを評価する一方、「運用するには厳しい要件となっており、次回の改定に向けて中医協で議論していきたい」と語った。

猪口全日病副会長は、回復期リハビリテーションへのアウトカム評価の導入について、「平成30年度に向けて、療養病床の再編にどのような影響が出るのか検証しなければいけない」と述べた。

平成28年度診療報酬改定の概要

I 地域包括ケアシステムの推進と医療機能の分化・強化、連携に関する視点

- 医療機能に応じた入院医療の評価
 - ・一般病棟の「重症度、医療・看護必要度」の見直し
 - ・病棟群単位による届出の導入
 - ・有床診療所における在宅復帰機能強化加算の新設
 - ・入院中の他医療機関受診時減算規定の緩和
- チーム医療の推進、勤務環境の改善、業務効率化の取り組み等を通じた医療従事者の負担軽減・人材確保
 - ・医師事務作業補助体制加算1の評価引き上げ
- 地域包括ケアシステム推進のための取り組みの強化
 - ・退院支援に関する評価の充実
- 質の高い在宅医療・訪問看護の確保
 - ・要件を満たした在宅医療を専門に実施する診療所の開設を認める
 - ・小児在宅医療に係る評価の推進
 - ・休日の往診に対する評価の充実
- 医療保険制度改革法も踏まえた外来医療の機能分化
 - ・紹介状なしの大病院受診時の定額負担の導入

III 重点的な対応が求められる医療分野を充実する視点

- 緩和ケアを含む質の高いがん医療の評価
 - ・がん診療連携拠点病院について評価している項目において、地域がん診療病院及び小児がん拠点病院についても評価を行う
- 「認知症施策推進総合戦略」を踏まえた認知症患者への適切な医療の評価
 - ・身体疾患を有する認知症患者に対するケアの評価の導入
- 地域移行・地域生活支援の充実を含めた質の高い精神医療の評価
 - ・地域移行を重点的に進める精神病棟の評価の導入
 - ・専門的な児童・思春期精神科外来医療の評価の導入
 - ・一般病棟において、身体合併症を有する精神疾患患者の受け入れや、精神症状を併せ持つ救急搬送患者に対し、精神科医が診断・治療を行った場合の評価の新設
- 難病法の施行を踏まえた難病患者への適切な医療の評価
- 小児医療、周産期医療の充実、高齢者の増加を踏まえた救急医療の充実
 - ・小児入院医療を担う保険医療機関のうち、重症児の受け入れ体制が充実している医療機関に対する評価の新設
 - ・夜間休日救急搬送医学管理料の評価の充実
- 医薬品、医療機器、検査等におけるイノベーションや医療技術の適切な評価
- DPCに基づく急性期医療の適切な評価

II 患者にとって安心・安全で納得できる効果的・効率的で質の高い医療を実現する視点

- かかりつけ医の評価
 - ・認知症地域包括診療料、認知症地域包括診療加算の新設
 - ・小児かかりつけ診療料の新設
- 情報通信技術（ICT）を活用した医療連携や医療に関するデータの収集・利活用の推進
 - ・保険医療機関間で、診療情報提供書を提供する際に、併せて画像情報や検査結果等を電子的に提供し、活用している場合の評価の新設
- 質の高いリハビリテーションの評価等、患者の早期の機能回復の推進
 - ・初期加算、早期加算の算定要件等の見直し
 - ・回復期リハビリテーション病棟におけるアウトカム評価の導入
 - ・要介護保険者に対する維持期のリハビリテーションについて、評価の適正化を図るとともに、介護保険への移行を図る
 - ・要介護保険者に対するリハビリテーションについて、その目標設定支援等にかかる評価を新設
- 明細書無料発行の推進

IV 効率化・適正化を通じて制度の持続可能性を高める視点

- 後発医薬品の使用促進・価格適正化、長期収載品の評価の仕組みの検討
 - ・院内処方を行っていて、後発医薬品の使用割合の高い診療所について、その使用体制に係る評価の新設
 - ・後発医薬品が存在する全ての医薬品を一般名で処方している場合の評価の新設
- 残薬や重複投薬、不適切な多剤投薬・長期投薬を減らすための取り組みなど医薬品の適正使用の推進
 - ・多種類の服薬を行っている患者の処方薬剤を総合的に調整する取り組みを行い、処方薬剤数が減少した場合の評価の新設
- 重症化予防の取り組みの推進
 - ・ニコチン依存症管理料の対象患者の拡大
- 医薬品、医療機器、検査等の適正な評価
 - ・入院時の経腸栄養用製品の使用に係る給付の見直し

日医 定例記者会見

2月10日・17日

新たな専門医の仕組みに

懸念を表明

方と専門医研修のあるべき姿の方向性について説明した。



横倉義武会長は、2月18日開催の第44回社会保険審議会医療部会で、「新たな専門医の仕組みの準備状況」について議論を踏まえ、改めて日医の考え

冒頭、同会長は、日本専門医機構（以下、専門医機構）の役割は、学問的・学術的な見地から専門医の認定評価の標準化を行うことであり、日医の役割は、地域医療や医療政策を始めとする医療提供体制全般について責任を持つことであると強調した。

その上で、2月10日に中医協の答申が行われたことに触れ、平成30年度の、医療と介護の同時改定、同じく同時改定となる医療計画と介護保険事業（支援）計画の開始に向けてさまざまな改革を進めていかなければならず、地域包括ケアシステムの推進に向けては、高齢化による疾病構造の変化に対応し、急性期後の受け皿病床の整備と充実を促す取り組みが求められているとした。

一方、現在検討されている専門医の仕組みに関する現状で、平成29年度から

新たな専門医の仕組みが始まれば、地域包括ケアシステム推進のための人材確保は一層困難になるとの懸念を示し、「新しい専門医の仕組みが地域包括ケアシステムの構築の阻害要因となつてはならない。急激な見直しによって医療現場に混乱が生じれば、最終的に不利益を受けるのは患者であり国民である」と指摘した。

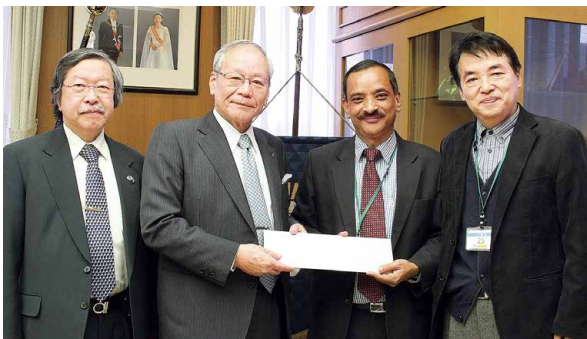
また、専門医機構と各基本領域学会の関係性についても言及し、専門医を認定する実質的な能力があるのはその学会だけであり、国民医療に資するためには、専門医機構が各基本領域学会の専門医の認定過程の透明性を

担保することが最も重要だとし、関係者間での更なる議論を求めた。

最後に横倉会長は、地域医療と専門医の仕組みを整合させるためには、日医と専門医機構、各学会の緊密な連携が必要であり、プログラム作成や地域医療に配慮した病院群の設定等を行うに当たっては、それぞれの地域において、行政、大学、病院、医師会等の関係者が協議・連携することが不可欠であると強調。「本年1月には厚生労働省から通知が出されたものの、現状ではまだ機能が十分ではない。日医としては、病院群の設定について地域の取り組みを先行して行うべきと考えており、平成29年からとされている新たな専門医の仕組みの導入時期の延長も視野に入れ、まずは地域の連携状況を把握する」とともに、地域における研修体制の整備を優先するなど、地域医療への影響を極力少なくしてから専門医研修が開始されることを望みたいとした。

横倉会長

ネパール地震の復興支援活動等について AMDA菅波代表 サロジ ネパール医師会副会長と会談



左から石井常任理事、横倉会長、ネパール医師会のサロジ副会長、AMDA菅波代表

横倉義武会長は2月10日、石井正三常任理事の同席の下、日医を表敬訪問したAMDA菅波代表とAMDAネパール支部長でもあるネパール医

の大地震はネパール中部を直撃し、各地に大きな被害をもたらした一方、その復興の最中の翌5月に起こった余震では精神的なダメージを強く受け

た住民がPTSDを発症するなど、不安や恐怖、頭痛などを訴える住民が多く見られた。

しかし、ネパールでは精神科医、臨床心理士、心理カウンセラーの絶対数が不足しているため、被災地での精神医療が行き届いていない現状であったことから、AMDAでは、日医、ネパール医師会の協力の下に、心理カウンセリングを行える人材を育てるための合同心理カウンセリングボランティア養成プログラムを実施。現在は、ヘルプアシスタントや地方開発担当のスタッフなど、約140名が履修している。

師会のサロジ・プラサド・オジャ副会長と会談し、ネパール地震の復興支援活動等について報告を受けた。

2015年4月25日に発生したマグニチュード7.8

会談では、ネパール医師会のサロジ副会長から日頃の日医の支援に感謝の意が示されたのに対し、横倉会長は、「自然災害における住民のメンタルヘルスの重要性が再認識されたと感じている。具体的な取り組みが行われ、その成果を上げた今回の経験を、今後の被災者支援にも生かしていきたい」と述べた。

また、横倉会長は、AMDA菅波代表と災害発生時の被災地、被災者支援における連携をこれまで以上に強力なものにしていくことを改めて確認した。



日本獣医師会 蔵内

日本医師会 横倉

日医・日本獣医師会 合同記者会見 「第2回世界獣医師会・世界医師会『One Health』に関する国際会議」を日本で開催

横倉会長は、蔵内勇夫日本獣医師会長と合同記者会見を行い、「第2回

世界獣医師会・世界医師会『One Health』に関する国際会議」を11月10、11の両日、福岡県北九州市内で開催することを明らかにした。

2012年10月に開催された世界医師会(WMA)パシフィック総会において『Global Health』の向上のため、『One Health』の理念の下に獣医師と医師が協力し合うことを目的としたWMAと世界獣医師会(WVA)の

覚書が取り交わされたことを受けて、日医では、2013年11月に日本獣医師会との間で学術協力の推進に関する協定書を締結している。

横倉会長は、「2015年5月にスペイン・マドリッドで開催された『第1回WVA・WMA『One Health』に関する国際会議』において、日本獣医師会の蔵内会長と共に臨んだ講演及び質疑応答を通じて、日本における両団体の連携と取り組みが高く評価された結果、第2回会議の開催国として日本が指名された」と説明するとともに、グローバル化が進む中、感染症の世界規模での蔓延が懸念されていることに触れ、「人獣共通感染症、薬剤耐性菌等の現状及び動向と課題に焦点を当て、国内外、特にアジアの専門家の声を聞くことで、更なる感染症対策の推進、ひいては医学、獣医学の進歩につながるような会議にしたい」と抱負を述べた。

一方、蔵内日本獣医師会長は、「人獣共通感染症はわが国にとって極めて脅威である。このような状況下で両団体が協力し、国民生活の安心・安全に寄与する体制を築くことは日本獣医師会の念願であり、使命でもある」と本会議の意義を強調するとともに、開催に向けて理解と協力を求めた。

平成27年度日本医師会医療情報システム協議会

「IT時代における地域医療連携のあり方」 『医療介護連携』『医療等ID』について」をメインテーマに



矢野一博日医総研主任研究員が、外部から攻撃を受けた日医総研H Pサーバーへの不正侵入の顛末を、菅原秀幸JAHISセキュリティ委員長が、昨年の日本金機構の情報漏えい事件のような「標的型サイバー攻撃」などについて、それぞれ説明。渡辺研司内閣重要インフラ専門調査会長長/名古屋

ウツ方式での第三者提供が禁止されることになるが、日医は、患者の同意を得た上でこのような情報を安全に扱うため、電子認証局、医療等IDの創設について積極的に取り組んでいる」とした。続いてあいさつした協議会運営委員長

の平松恵一広島県医師会会長は、「今回の地域医療セッションは、今まで少し視点を変えて、SNSを活用した医療介護連携をテーマとした。フロアから生の声を聞かせて欲しい」と述べた。

「I. 地域医療セッション」では、富山県の藤岡照裕下新川郡医師会理事が「Microsoft社のOneDriveを活用した「あんしん在宅ネット」について、本システムには、アクセス機能があり、職種の垣根を越えた検討・協力が可能になっている」と報告。

窪田理愛媛県医師会常任理事は、県医師会がVPNで構築している「連携EMAネットワーク」について、在宅医療連携

各地域における多職種連携の取り組みを紹介

まず、「I. 地域医療セッション」では、富山県の藤岡照裕下新川郡医師会理事が「Microsoft社のOneDriveを活用した「あんしん在宅ネット」について、本システムには、アクセス機能があり、職種の垣根を越えた検討・協力が可能になっている」と報告。

長島公之栃木県医師会常任理事は、インフラもお金もなくICTの専門家もいない医師会でも連携が可能となる完全非公開型医療介護専用SNS「メディカルケアアステーション」(どこでも連絡帳)と地域医療連携ネットワーク「とちまるネ

ット」のコーポレーションについて報告した。上野智明日医総研主席研究員は、医療・介護分野のICTを利用した多職種連携に関する追加調査の結果を概説。ICTを利用した多職種連携は約70%が「導入効果がある」と回答しているとした。

高尾洋之東京慈恵会医科大学准教授は、医療用に特化したSNSアプリ「Join」を中心に、大分県の外友一洋臼杵市医師会常任理事、山本隆一東京大学大学院特任准教授、石川常任理事を加えた総勢11名によるパネルディスカッションが行われ、セキュリティ(参加職種・情報の範囲)や運用(実施母体、行政の関与、コスト等)に関して活発な意見交換が行われた。

14日には、まず、「日医IT戦略セッション」が行われ、「医師資格証」の発行状況と「JAL DOCTOR登録制度」などの身分証としての利用、統合出欠単位管理システム、診療報酬点数算定ができる「電子紹介状」等の医療文書を作成し、電子カルテを導入している医療機関であってもICTを用いた地域医療連携に参加できる環境を提供する「MICAN」の最新情報を紹介。

午後からは、「シンポジウム」マイナンバーと医療等IDについて」が行われた。石川常任理事はマイナンバーと医療等IDの関わりについて、これまでの経緯を報告。個人情報を守るためにも医療等IDは必要であり、医療分野におけるマイナンバーの利用拡大は阻止しなければならぬとした。

向井治紀内閣官房社会保障改革担当室内閣審議官は、マイナンバーに関する多くの疑問に答えるとともに、戸籍とのひも付けや、保険証としての利用など、マイナンバーの今後の利活用に向けた展望を述べた。

篠原俊博総務省自治行政局住民制度課長は、「個人番号カードに付いているICチップには呼び出しキーのみが入っているもので、万が一落としたとしても、それだけで個人情報や医療情報などが漏えいする心配はない」と説明。今後も、公的個人認証を使った新たな電子政府を展覧し、民間サービスを広げていくためにも、公的個人認証サービスの利用のメリットを増やし、更なる普及に向けて力をいれたいとした。

佐々木裕介厚生労働省大臣官房参事官(情報政策担当)は、医療等分野の情報連携に用いる識別子(ID)について解説。今後については、医療等IDの導入に向けて、保険者、医療関係者とも協議・検討を続けていく意向を示した。

山本東大特任准教授は、日医に設置された医療分野等ID導入に関する検討委員会」における議論の内容を報告。引き続き検討を続け、年度内には実現可能な仕組みを提言したいとした。

閉会式では、次回担当の時本恭長崎県医師会会長が次回の協議会に向けた抱負を述べた後、運営委員会委員の牛尾剛士広島県医師会常任理事が2日間の協議会を総括し、閉会となった。

なお、本協議会では、「医師資格証」を使った出欠管理を行い、119名の利用があった。

医師資格証 持っていますか?

日本医師会電子認証センターでは医師の資格を証する「医師資格証」の発行を進めています。発行を希望される方は、下記のホームページをご覧ください。

日本医師会電子認証センター
<http://www.jmca.med.or.jp>
 E-mail toiawase@jmca.med.or.jp

日本医師会 秘書課 03-3942-6494・人事課 03-3942-6493・庶務課 03-3942-6481・企画課 03-3942-6477・施設課 03-3942-7027・総務課 03-3942-6486・広報・情報課 03-3942-6483/03-3942-6490

介護保険課 03-3942-6491・年金・税制課 03-3942-6487・生涯教育課 03-3942-6139・編集企画室 03-3942-6488・日本医学云 03-3942-6140・情報サービス課 03-3942-6482・医学図書館 03-3942-6489

03-3942-6492・6494・6495・6496・6497・6498・6499

日本社会福祉士会と協力し 地域包括ケアシステム構築を 進めていくことを確認

横倉会長



横倉義武会長は2月23日、今村聡副会長、鈴木邦彦常任理事の同席の下、日医会館を訪れた鎌倉義英日本社会福祉士会会長と会談を行った。

福祉の援助を必要とする人々の生活と権利の擁護及び社会福祉の増進に寄与することを目的として、日医会館を訪れた鎌倉義英日本社会福祉士会会長と会談を行った。

倉克英日本社会福祉士会会長と会談を行った。公益社団法人日本社会福祉士会は「社会福祉士」の職能団体で、社会福祉士の倫理を確立し、専門的技術を研鑽し、社会福祉士の資質と社会的地位向上に努めるとも、社会福祉の援助を必要とする人々の生活と権利の擁護及び社会福祉の増進に寄与することを目的として、日医会館を訪れた鎌倉義英日本社会福祉士会会長と会談を行った。

患者さんからの贈り物

20年ほど前から高血圧で当院にかかりつけの男性患者さんとの話です。昔は少しやんちゃな事もしていたようで、私が「軍鶏鍋が好きだ。食べたい」と言うと「俺は昔、闘鶏をやったから、軍鶏なら手に入るよ。今度持ってきてやっから」と、どっさり経緯は忘れてしまいました。診察中にそんな話になりました。

取ったのですが、午前の診察を終えた私は玄関先に置いてある段ボールを見つ、妻に「誰から頂いたの？」と、聞いていたのうちに異変に気が付きました。箱の中からかさかさとした音がするので、恐る恐る少し開けてみると、何と元氣な雌の軍鶏がこちらを見て私をつつこつと見つめているではありませんか。



「生きてるじゃないか」当然下ろしてある(できれば、内臓と筋肉がブレた状態の)ものと思込んでいた私は妻に怒りをぶつけました。どうやら妻の「困りますから」という言葉を聞き流して、「先生なら絞められるよな」と言っていた行ってしまったようです。

頸動脈を切って羽をむしるなど内科医の私にできるはずもなく、向かいの居酒屋の親父に相談しました。あつさり「そんな酷いことできないよ。牡蠣の殻を開けるのとは大違いだよ」と断ら



実際に委員会を設置してからの申請内容を振り返ると、学会発表のための審査依頼は数件で、医会や開業医の先生方が診療の傍ら自ら行う自主研究のための審査件数の方がはるかに多く、先生方の自主研鑽を行う姿勢に改めて驚かされる。

第136回 日本医師会臨時代議員会 次第	
日時	平成28年3月27日(日) 午前9時30分
場所	日本医師会館 東京都文京区本駒込2丁目28番16号
1. 開会	
1. 会長挨拶	
1. 報告	平成27年度日本医師会予算補正並びに平成28年度日本医師会事業計画及び予算の件
1. 議事	第1号議案 平成27年度日本医師会会費減免申請の件
1. 閉会	

「倫理審査特別委員会」の取り組みについて

— 神奈川県医師会 —

神奈川県医師会では、現日医常任理事の羽鳥裕先生を担当理事として、平成21年5月に倫理審査特別委員会を設置した。設置の目的は、県医師会が学術団体として自身の医療機関で倫理審査委員会を設置することが難しい診療所や小規模病院、医会などが研究発表を企画した場合に、個人情報等の取り扱いに関する

倫理上の問題等を審査し、その研究発表等を支援するとともに会員医療機関を支援することであったが、平成26年2月以降、いわゆるディオパンの事件が社会問題となっただけで、日本医学会利益相反委員会が作成したガイドラインを踏まえて利益相反に関する審査も倫理審査と併せて行っている。

臨床研究は、医療における疾病の予防方法、診断方法の改善、疾病原因及び病態の理解並びに患者の生活の質の向上を目的として実施される「人を対象とする研究」である。開業医等の先生方は診療の傍ら臨床研究にも取り組まれており、県医師会としても少しでも会員の方の研究の支援の一助となれば幸いである。また、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイドライン」(平

都道府県医師会だより

アシシステムの構築に向けて、両団体が協力して取り組んでいくことを確認した。

が正式な会談を行うのは、本年1月6日に行われた全国老人福祉施設協議会との会談(本紙第1306号既報)以来2回目となるが、日医では、今後も介護・福祉系団体との意見交換を重ね、その連携を強めていくことにしている。

成27年3月31日一部改訂)では、委員の年1回の研修会の参加が義務化されたこと等によって、委員の先生方にもより適正な審査が求められるなど、負担が増している。厚生労働省でも、研究者等が、より円滑な臨床研究を行えるように指針を順守し、臨床研究を推進することを奨励しているが、県医師会でも患者さんへの医療に還元できるものであると考え、会員の先生方と共に今後倫理審査に取り組んで参りたい。

案内

子育て支援フォーラム in 宮城 「子育ての応援とゼロ歳児からの虐待防止を目指して」

◆主催(共催)：日医、公益財団法人SBI子ども希望財団、宮城県医師会
◆後援：厚生労働省他
◆日時：4月2日(土)午後2時～5時
◆会場：仙台サンプラザ 2F 983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡5-11-1

◆参加費：無料
◆申込方法：日医ホームページ (http://www.med.or.jp/people/info/seminar/004226.html) から所定の申込書を入力

◆申込締切：3月25日(金)。ただし、定員(250名)になり次第締め切る。
◆主なプログラム：①あいさつ 横倉義武会長、嘉数研二宮城県医師会長
②基調講演「わが国の小児保健・医療の課題と健康親子21の果たす役割」(五十嵐隆国立成育医療研究センター理事長)

③シンポジウム
・「今日の子ども家庭と社会的養護の現状・課題(仮題)」(加賀美尤祥社会福祉法人山梨立正光生園理事長/山梨県立大学人間福祉学部特任教授)
・「子どもが安心出来る生活を支援するための虐待対応と地域連携(仮題)」(星野崇啓さいたま子どもこころクリニック院長・小児精神科医)
・「タイトル未定」(川村和久かわむらこどもクリニック院長)
・「タイトル未定」(柿沼紗都子佐々木悦子産科婦人科クリニック助産師)

④討議
◆問い合わせ・申し込み先：日医地域医療第三課

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
☎03-3942-818
1(直)、☎03-3946-2984、@gyakutai@no.med.or.jp
※当日は会場内に託児所を無料で設置する予定(定員10名)。利用希望者は申込用紙に記入し、3月25日(金)までに申し込み願うたい。

日本医師・従業員国民年金基金 案内

基金理事会・代議員会の開催
平成28年度事業計画・経理予算を承認

日本医師・従業員国民年金基金の平成27年度第2回理事・代議員会が2月18日、都内で開催された。

当日は、直近の業務状況が報告された後、次の議案について審議を行い、承認された。

主な審議事項

- 一、平成28年度事業計画
- 二、平成28年度経理予算

0650)まで。
問い合わせは、基金事務局(☎0120-70

お知らせ

本年4月30日までに郡市区医師会に提出頂く 平成27年度生涯教育申告書 について

本年4月30日までに郡市区医師会に提出して頂く「平成27年度生涯教育申告書」につきましては、従前どおりの申告方法となります。

『日医雑誌』3月号に同封した別掲の「日本医師会生涯教育カリキュラム<2016>」及び「日本医師会生涯教育制度のご案内」(パンフレット)は、本年4月から運用を開始する内容となっておりますので、ご留意下さい。

詳細につきましては、日医ホームページ (http://www.med.or.jp/cme/about/index.html) をご参照下さい。

問い合わせ先：日医生涯教育課 ☎03-3942-6139(直)



日本医師会生涯教育カリキュラム<2016> 日本医師会生涯教育制度のご案内

日本医師会 医師年金

— ご加入のおすすめ —
医師年金は、日本医師会が運営する医師専用の私的年金です。日本医師会員で満64歳6カ月未満の方が加入できます(申し込みは64歳3カ月までをお願いします)。

受取年金額のシミュレーションができます! 医師年金 検索 <http://www.med.or.jp/nenkin/>

【シミュレーション方法】
トップページから「シミュレーション」に入り、ご希望の受取額や保険料、生年月日を入力すると、年金プランが表示されます。

【仮申込み方法】
「マイページ」に登録すると、ネット上で医師年金の仮申し込みが可能となります。

【シミュレーション方法】
トップページから「シミュレーション」に入り、ご希望の受取額や保険料、生年月日を入力すると、年金プランが表示されます。

【仮申込み方法】
「マイページ」に登録すると、ネット上で医師年金の仮申し込みが可能となります。

お問い合わせ・資料請求：日本医師会 年金・税制課 ☎03-3942-6487(直) (平日9時半～17時)

南から北から

広島県
広島市医師会だより
No.587より

ひなまつり

秋本 尚孝

三月三日は上巳(じょうじ)の節句
または桃の節句と言われ
た五節句の一つで江戸時
代までは祝日であったそ
うである。

ひな祭りの由来や歴史
は周知されることであ
るが、少し温習してみた。
古くは5世紀にさかのほ
り、宮中では流水に杯を
浮かべて詩を詠んで不祥
を除く「曲水の宴」があ
り、一方では身代わりと
なるヒトガタ(人形)をお
はらいの道具として水に
流す風習(流しびな)が
あった。

また中国にも3世紀頃
から類似した風習があ
り、それが平安時代に伝
わって日本の風習と習合
し、宮中での上巳のはら
い行事から節句に推移し
ていった。この節句は公
家や武家の行事であった
が、江戸元禄時代には庶
民に広く浸透し発展を遂
げた。女の子の遊び道具
でもある人形は、紙製か
ら衣装を着せた人形とな
り、官女ややし、生活
道具などが加わり、豪華
に飾って楽しむおひな様
となったのである。

内裏ひなは元々天皇を
が、我々の小さい頃、母

が嫁入り道具で持ってき
たひな人形が床の間に飾
られていた。当時のおも
ちゃは粗末なものだった
ので、格別なおもちゃと
して目に映った。正に精
巧なミニチュア模型であ
る。特に小道具に強い関
心があり、三人官女の持
つ鉾子や五人ばやし、笛
や太鼓、ままごとのでき
るお膳など、中でも隨身
の持つ刀と弓矢が一番の
お気に入り。

現在わが家では、子ど
も達は結婚し、生まれて
来た孫達は男ばかりで、
主役となる女の子があら
ず、ひな人形は仕舞った
ままである。今年もお内
裏様は掛軸で勘弁しても
らい、女の子とは言い難
い妻と二人で、ひなあら
れとに酒をささやか
なひな祭りをしていく。

東京都
三鷹区
三鷹
277号より

うれしかったこと

倉本 慶子

10 近く歳の離れた姉
は、身内が言うのもどう
かと思うが、超のつく美
人である。ぼっちりした
目と鼻筋の通った華やか
さは、一応二重まぶたで
も普通の日本人顔の私と
は誰が見ても全く似てい
ない。まあ、わが家は全
員お互いが誰とも似てい
ないのだが、姉妹でも生
まれてくる年が離れると
ころも違うかと思っ
ていなかっただけで、あ
い

お気に入りであった。何
度も手に取って見た記憶
がある。年々傷んでいっ
たようで、記憶の最後で
は、ぼんぼりが壊れ、桜
と橋の破壊された柵が紐
でくぐられていた。
現在わが家では、子ど
も達は結婚し、生まれて
来た孫達は男ばかりで、
主役となる女の子があら
ず、ひな人形は仕舞った
ままである。今年もお内
裏様は掛軸で勘弁しても
らい、女の子とは言い難
い妻と二人で、ひなあら
れとに酒をささやか
なひな祭りをしていく。

まだに覚えていてという
ことは、やっぱり少しは
面白くない気持ちもあっ
たのかも知れない。誰だ
って美人と言われた方が
うれしに決まっています。
先日両親と私とで京都
に行く機会があった。茶
の湯の世界では千利休か
らの流れとなる茶道具を
作る家系を職家と言ひ、
千家十職と呼ばれるが、
その中の塗師、中村宗哲
家にお邪魔することがで
きた。こんな機会は滅多
になく、美術館のガラス
張りで見るとは、歴代の
塗物を目の当たりにし、
宗哲氏直々にお話し頂い
て我々は平静を装いつつ
も内心大興奮であった。
ミーハーの我々母娘は宗
哲氏と一緒に写真撮
って頂いて興奮のまま帰路
につき、後日母がこれを
自分の茶道の先生にお見
せしたところ、まあ母娘
で似てらっしゃるのね
と言われたそうである。

母は「私たちが似てら
うれしそに飽かず写真
を眺めてはににここして
いた。申し訳ないことに、
もはや宗哲氏そっこのけ
である。大人のあいさつ
として似ていると言われ
たにしても、うれしそ
な母を見ているのがうれ
しかった。美人の方がう
れしいに決まっているの
に、超美人ではない方の
娘、私と似ていると言わ
れて喜んでる母を見て
いるのがうれしかった。

母は私と似ていてうれし
いんだ、と思ったり、な
んだか胸がきゅつとし
た。私も母に似ていると
言われてうれしかった。
似ていないつもりでも
肉親というのは年月が経
てばどこか、顔であれ雰
囲気であれ、だんだん似
てくるものなのかも知れ
ない。きっと姉も私もお
互い同士はまだそうでな
くても、それぞれ少しず
つ母に父に似てきている
のだろうか。大事な人と
似ていると言われると
うれしい。

宮崎県
日州
日州
第789号より

すぐ返事を

谷口 二郎

谷口家の家訓に、人か
らモノを頂いた時や手紙
などを受けたらすぐ
返事を書くというがあ
る。小さい時からそうし
つけられてきたので、当
たり前の習慣と思ってい
た。

そのため、いつでも礼
状や返事が出せるよう
に、机の上には洗濯バサ
ミに挟まれたお手製のオ
リジナルハガキが置いて
ある。なぜ洗濯バサミに
挟んであるのか？ それ
はただ机の上に置いてあ
ると、他のモノに紛れて
しまったり、探すのが面
倒くさいと思うからであ
る。すぐに書かないと出
しそびれたり、結局出さ
なかったりしてしまう。
返事を書くというタイミ
ングは、すぐではないと

うれしい。うれしくて余計
に距離が縮まる。似てい
ると言われて喜んでくれ
ている母、親子で次第に
似てきた両親に孝行した
いと思う。与えてもらっ
た愛情には感謝してもし
きれないし、私なんか
できることは限られてい
るのだけれど、似ている
と言われて母が喜んでい
るといことは、小さな
親孝行の少しだけでも
きているのかなと思っ
てまた胸がきゅつとして、
涙が少し出た。(一部省略)

のを防ぐために、カルテ
の下の所に、〇月〇日返
事済み」と記入すること
になっている。うっかり
忘れていないかチェック
するためだ。

ところが、最近、紹介
しても返事が来ないこと
が多い。ざっと計算して
みると、3割くらいは全
く返事が来ない。多分紹
介した患者さんは、そこ
を受診しているはずだ。
せめてそこを受診したと
いう返事くらいは欲し
い。そしてその後の経過
やサマリーを送って欲し
いのだ。

今流行のSNSなどの
ように、メールを送った
ら5分以内に返事を出さ
ないとシカト(無視)され
るので、常にスマホを手
元に置いておかななくては
ならないとまではいかな
くとも、そういう風な気
持ちは持つことが大切だ。
紹介しても返事が来ない
時は、相手の先生の人格
が疑われることになる。
多分ついっかり忘れた
ということではなく、そ
ういう習慣がないのだら
う。

モノを頂いたり、紹介
状を受け取ったら、すぐ
に返事を出す。そういう
繰り返しがその人の信用
を高め、信頼されるとい
うことにつながるのでは
ないだろうか。

ぜひともモノを頂いた
り、紹介状を受け取った
ら、その日に返事を出し
て欲しい。(一部省略)

第34回「心に残る医療」体験記コンクール表彰式

18名の受賞者を表彰



第34回「心に残る医療」体験記コンクール
主催：日本医師会 読売新聞社 後援：厚生労働省 協賛：アウディジャパン

者にとっても、ありがたく大いに励みになるとし、受賞者への敬意を表した。その上で、今後、「健康寿命」を延伸するために、高齢になっても生きがいを持って生き生きと働き続ける、「一億総活躍社会」を実現することが肝要であり、「高齢者の生きがいづくり」が本年のキーワードとの考えを示し、「日医では、その実現のため、『国民と共に歩む専門家集団』として、真に国民に求められる医療提供体制の構築に向けた政策提言に一層努めていく」と述べた。

入賞者名一覧 (敬称略)

一般の部		
厚生労働大臣賞 「お父さんの思い出づくり」	杉本真由美	(福岡)
日本医師会賞 「娘を支えてくれた人たち」	福島 正義	(静岡)
読売新聞社賞 「看護師Eさんとの出会い」	山田 幸夫	(兵庫)
入選		
「わたしは神様じゃない！」	岡野 園子	(東京)
「看護師さんの閃きに救われて」	鍋島美恵子	(福岡)
「母の心の目に見えたもの」	中村 和子	(千葉)
「病気と共に生きる」	藤戸阿由美	(佐賀)
「命をいただいて」	上島 博	(奈良)
「ありがとう」	岩間 泰子	(東京)
「心の支え、ベイリー」	梅原 美恵	(神奈川)
中高生の部		
最優秀賞 「中三の夏」	佐藤 顕子	高1(埼玉)
優秀賞 「T先生のレング病院」	八木橋由折子	中2(千葉)
「僕が生きている意味」	小山 太希	中2(宮城)
「勉強させられた通院・入院生活」	倉田 里穂	高2(京都)
小学生の部		
最優秀賞 「時計をもたないぼくの先生」	藤原 将真	小2(千葉)
優秀賞 「何でも最後まで…悲しみから学んだ事」	池添 希	小5(奈良)
「重い病気になって」	岡田 洋奈	小3(宮城)
「ママと私の心の先生」	宮下 月希	小3(新潟)

塩崎恭久厚生労働大臣(梅田珠美厚労省大臣官房審議官代読)の祝辞に続いて、石川常任理事が、「本コンクールは、昨年5月21日に募集を開始し、10月14日に締め切った。その結果、991編という多数の応募があった(内訳は、『一般の部』が840編、『中学生の部』が107編、『小学生の部』が44編)。第一次審査で138編、第二次審査で40編に絞られ、12月7日に行われた最終審査で、各賞が決定した」と経過報告を行った。

引続き表彰に入り、「一般の部」では、厚生労働大臣賞、日本医師会賞、読売新聞社賞の3賞と、入選の受賞者に、その後、「中学生の部」並びに「小学生の部」の最優秀賞、優秀賞の受賞者を授与。作家・詩人のねじめ正一氏が審査講評を行い、表彰式は終了した。なお、今回の入賞作品18編は、例年どおり冊子としてまとめ、本紙5月5日号に同封して全会員に送付する予定となっている。

第34回「心に残る医療」体験記コンクール(日医・読売新聞社主催)の表彰式が、2月7日に都内で開催され、日医からは、横倉義武会長、石川

大日常任理事が出席した。冒頭の主催者あいさつの中で、横倉会長は、実際の体験に基づく医療を通じた出会いと信頼が綴られた作品は、医療提供

先生から証書と贈り物を頂く時は、しっかりと自分の足で立って受け取ることができました。参加したみんなが涙を浮かべながらも笑顔で、本当にほほえましい時間でした。Fさんのことは娘も大好きだったので、わがままや無理も言っていたと思います。でも苦手な看護師さんだと遠慮して言えなくなるので、そうやって娘なりにバランスを取っていたのだと思います。Fさんは娘にとって、心の支えになっていたのだと思います。

日本医師会賞 「娘を支えてくれた人たち」 (全文掲載)



福島 正義
静岡県静岡市
39歳・会社員

6年9か月という短い人生を終えた愛娘。実に人生の半分以上をお世話になった、病院の職員の皆様とは、娘との思い出をたくさん残して頂きました。

看護師のFさんが娘の担当になり、どんな人か

なあと娘もドキドキしていましたが、すぐに優しい雰囲気のでFさんが大好きになりました。AKB 48のDVDを見ながら一緒に振り付けを覚えたり、ディズニーの話をして盛り上がりたり。いつも笑いの絶えない病室だ

ったと思います。骨髄移植を受けるに当たっては、当時3歳だった娘でも分かるように、イラスト付きで分かりやすい冊子を作ってくれて、ゆっくりと時間をかけて説明してくれました。どんなに小さな子でもきちんと分かりやすく説明をして、その子に治療を受け入れてもらうという姿勢は共感できました。

面会時間は限られていたので、私達が行けない間、看護師さんを始め、保育士さんや心理士さん

の生活の中で、職員さんなどできるのがあるかな

と聞いていましたが、Fさんがすごい情熱を持ってやってくれました。Fさん中心に病棟の皆さんで手作りの飾りを造り、お部屋を華やかにしてくれました。たった一人のためにこんなことをやってくれることに感動しました。Fさんの尽力もあり、無事卒園式を執り行うことができました。ペピーカーに座って参加した娘。驚いた状況をあっても、そうやって娘が元気になることを信じてという気持ち

は共感できました。面会時間は限られていたので、私達が行けない間、看護師さんを始め、保育士さんや心理士さん

ら、メデイエーターさんといった方々が娘に関わって下さり、ママやパパと離れていても寂しくないようサポートして下さいました。本当は心強かったです。

5歳の時白血病に罹り、2度目の骨髄移植をしなければならなくなり、卒園式にも出られない。ところが、幼稚園の先生方とFさんが協力して、病棟で娘のために卒園式を開いてくれることになりました。初めはそんなことできるのかな

しいのかよく分からない。涙をたくさん流しました。娘の最期の夜はやっぱりFさんと、もう一人、娘が大好きだった看護師さんが夜勤でした。きっとその時を見計らって逝ったのだろうと話してしまいました。夜勤中で忙しいにもかかわらず、息を引き取ってから、娘の体を私達と一緒に風呂で綺麗に洗ってくれたFさん。「Fさんがいてくれて、娘も喜んでいてくれます」と言うといえ、私は何もできなくて泣いていました。その後、小学校の入学式に着ていく予定だった洋服を着せてくれ、お化粧もしてくれました。その時には娘の周りにはたくさん病院職員さん達が集まってきました。みんな娘との思い出話をしていました。「小学校に行けたね、良かったね」と声をかけてくれました。

娘が病気になるなければ出逢わなかった縁。だけど娘にとっては、本当はかけがえない時間を過ごさせてあげられなくてごめんねと涙を流された方もいました。本当は元気になって欲しかったけど、こんなにも素敵な人達に囲まれて、娘は幸せだったと思います。出逢ってくれたことに、感謝いたします。ありがとう。